

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部・学科等の名称	専任教員数							非常勤教員	専任教員一人当たりの在籍学生数
	学校長	教務部長 学科長 学生担当課長	教員	計	基準数	うち理学療法士 又は作業療法士 教	助手		
教務部	1人	2人	—	3人	—	3人	—	—	—
理学療法学科	—	1人	6人	7人	6人	7人	—	40人	16人
計	1人	3人	6人	10人	—	10人*	—	40人	—

※ 10人は全て理学療法士

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・ 兼任)
基礎	科学的思考の基盤	PC演習	15	中村直人	専任
		情報統計科学	15	中村直人	専任
		心理学	15	中村直人	専任
		科学哲学	15	岩崎大	兼任
	人間と生活	生活社会科学	15	中原留美子	専任
		英語 I	15	Matthew Keighley	兼任
		英語A (選択)	8	Matthew Keighley	兼任
		英語B (選択)			
	社会の理解	コミュニケーション論	15	植田英則・山口美和	専任・兼任
		ボランティア活動論	8	大沼賢洋・赤岩龍士・中村毎途	専任
		スポーツ科学	15	赤岩龍士	専任
	人体の構造と機能	解剖学 I	15	安藤 亨	兼任
		解剖学 II	15	市村真樹・三田久載	専任
解剖学実習 I		15	宮下正好	専任	
解剖学実習 II		15	宮下正好	専任	
生理学 I		15	遠藤 雄三	兼任	
生理学 II		15	遠藤 雄三	兼任	
運動学 I		15	内田成男・市村紋子	専任	
運動学 II		15	市村真樹	専任	
身体運動学		8	植田英則	専任	
臨床運動学		15	未開講		
運動生理学実習		15	赤岩龍士		
人間発達学		15	中村直人	専任	
人体構造学		15	未開講		

専門基礎	病気の成り立ち、その予防及び回復の促進	病理学	15	遠藤 雄三	兼任
		臨床心理学	15	杉本 好行	兼任
		内科学Ⅰ	15	鈴木淳	兼任
		内科学Ⅱ	15	青木秀剛・金井玉奈	兼任
		神経内科学	15	井上聖啓・内田成男	兼任・専任
		整形外科Ⅰ	15	福塚邦太郎	兼任
		整形外科Ⅱ	15	木島 丈博・平野 圭司・佐久間亮輔	兼任
		小児科学	8	佐藤博美	兼任
		精神医学Ⅰ	15	金井玉奈	兼任
		精神医学Ⅱ	15	望月 美和	兼任
		脳神経外科学	15	井上聖啓・三田久載	兼任・専任
		薬理・栄養と健康	8	倉田衣津子・佐藤哲守・金井玉奈	兼任
		リハビリテーションと障害	15	未開講	
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	15	菊池和也・内田成男	兼任・専任
		チーム医療論	8	長田美紀・中村毎途・稲葉有紀子・石島淳児・柚木克方・馬場幸治・野田 幸男	専任・兼任
社会福祉概論		8	中村毎途	専任	
関連法規		8	未開講		
基礎理学療法学	基礎理学療法学Ⅰ	15	植田英則・白井英彬	専任	
	基礎理学療法学Ⅱ	15	植田英則・白井英彬	専任	
	基礎理学療法学実習Ⅰ	15	植田英則	専任	
	基礎理学療法学実習Ⅱ	15	植田英則・白井英彬	専任	
	理学療法研究	15	未開講		
	理学療法研究演習	23	未開講		
理学療法管理学	理学療法管理学	15	未開講		
	理学療法教育学	8	未開講		
理学療法評価学	機能診断学	15	三田久載	専任	
	運動機能評価学	15	赤岩龍士・大沼賢洋	専任	
	運動機能評価学実習	30	赤岩龍士・大沼賢洋	専任	
	神経機能評価学	15	三田久載・長田美紀	専任	
	神経機能評価学実習	15	白井英彬・長田美紀	専任	
	画像評価学	8	未開講		
	動作分析学実習	23	白井英彬	専任	
	理学療法評価学	8	三田久載	専任	
	理学療法評価学実習	15	大沼賢洋・長田美紀	専任	
	総合理学療法評価学	15	未開講		

専門

理学療法治療学	運動療法学	15	植田英則・宮下正好・内田成男	専任	
	運動療法学実習	15	植田英則・宮下正好・内田成男	専任	
	予防理学療法学	8	未開講		
	中枢神経疾患理学療法学Ⅰ	15	長田美紀・三田久載	専任	
	中枢神経疾患理学療法学Ⅱ	15	長田美紀・三田久載	専任	
	中枢神経疾患理学療法学実習Ⅰ	15	長田美紀・三田久載	専任	
	中枢神経疾患理学療法学実習Ⅱ	15	長田美紀・三田久載	専任	
	神経・筋疾患理学療法学Ⅰ	15	白井英彬・市村真樹	専任	
	神経・筋疾患理学療法学Ⅱ	15	白井英彬・内田成男	専任	
	運動器疾患理学療法学Ⅰ	15	大沼賢洋・植田英則	専任	
	運動器疾患理学療法学Ⅱ	15	大沼賢洋・赤岩龍士・植田英則	専任	
	運動器疾患理学療法学実習Ⅰ	15	大沼賢洋・植田英則	専任	
	運動器疾患理学療法学実習Ⅱ	15	大沼賢洋・赤岩龍士・植田英則	専任	
	スポーツ理学療法学	15	赤岩龍士	専任	
	小児理学療法学	15	赤岩龍士	専任	
	内部疾患理学療法学	15	赤岩龍士・宮下正好・森雄司・宮川透	専任・兼任	
	内部疾患理学療法学実習	15	赤岩龍士・宮下正好・宮川透	専任・兼任	
	日常生活活動学	15	白井英彬・長田美紀	専任	
	日常生活活動学実習	15	白井英彬・長田美紀	専任	
	物理療法学	15	内田成男・中村剛志	専任・兼任	
	物理療法学実習	15	内田成男・中村剛志	専任・兼任	
	装具学	15	長田美紀・市村真樹	専任	
	義肢学	15	植田英則	専任	
	症例検討Ⅰ	8	三田久載	専任	
	症例検討Ⅱ	8	未開講		
	臨床理学療法学	30	未開講		
	理学療法技術論	15	未開講		
	理学療法セミナー	8	未開講		
	地域作業療法学	地域リハビリテーション学	15	市村真樹	専任
		生活環境論Ⅰ	8	三田久載	専任
		生活環境論Ⅱ	8	未開講	
	臨床実習	臨床実習Ⅰ	施設5日・学内2コマ	三田久載・大沼賢洋・各実習施設指導者	専任・兼任
		臨床実習Ⅱ	施設5日・学内2コマ	三田久載・大沼賢洋・各実習施設指導者	専任・兼任
臨床実習Ⅲ		施設15日・学内23コマ	三田久載・大沼賢洋・各実習施設指導者	専任・兼任	
臨床実習Ⅳ		施設40日・学内23コマ	三田久載・大沼賢洋・各実習施設指導者	専任・兼任	
臨床実習Ⅴ		施設40日・学内23コマ	三田久載・大沼賢洋・各実習施設指導者	専任・兼任	

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
臨床実習Ⅰ（見学）	1年後期	コミュニケーション論	1年前期
		リハビリテーション概論	1年前期
		チーム医療論	1年前期
		基礎理学療法学Ⅰ・基礎理学療法学実習Ⅰ	1年前期
		基礎理学療法学Ⅱ・基礎理学療法学実習Ⅱ	1年後期
臨床実習Ⅱ（地域リハ見学）	2年後期	専門基礎分野の科目	1・2年
		機能診断学	1年後期
		運動機能評価学・実習	2年前期
		神経機能評価学・実習	2年前期
		日常生活活動学・日常生活活動学実習	2年前期
臨床実習Ⅲ（評価実習）	3年前期	運動機能評価学・実習	2年前期
		神経機能評価学・実習	2年前期
		日常生活活動学・日常生活活動学実習	2年前期
		動作分析学実習	2年後期
		理学療法評価学	2年後期
		理学療法評価学実習	2年後期
		中枢神経疾患理学療法学Ⅰ・実習Ⅰ	2年後期
		神経・筋疾患理学療法学Ⅰ	2年後期
		運動器疾患理学療法学Ⅰ・実習Ⅰ	2年後期
		スポーツ理学療法学	2年後期
臨床実習Ⅳ（総合実習）	3年後期	専門分野の理学療法評価学全般	2年
		運動療法学・実習	2年前期
		中枢神経疾患理学療法学Ⅰ・実習Ⅰ	2年後期
		神経・筋疾患理学療法学Ⅰ	2年後期
		運動器疾患理学療法学Ⅰ・実習Ⅰ	3年前期
		物理療法学・実習	3年前期
		装具学	3年前期
生活環境論Ⅰ	3年前期		
臨床実習Ⅴ（総合実習）	4年前期	専門分野の理学療法評価学全般	2年
		2・3年履修の理学療法治療学全般	2年・3年
		小児理学療法学	3年後期
		内部疾患理学療法学・実習	3年後期
		義肢学	3年後期
		症例検討Ⅰ	3年後期

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	学校自己評価委員会		
委員名（委員長）	宮下正好（教務部長）		
組織の開催頻度	必要に応じて随時開催		
組織の取り組み内容	自己点検・評価表 2022モデルVer. 2.0_B（全専研）による自己点検の実施		
	教員資格及び教育内容等の自己評価（養成施設ガイドライン）の実施		
	リハビリテーション教育評価機構 指定様式による自己点検の実施		
	上記自己点検の実施結果より、課題の抽出・改善計画の検討		
自己点検・評価結果の公表	学校ホームページ（ https://www.morishima.ac.jp/fuji/ ）		

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	教務部打合せ会議
	委員構成等	教務部長、学科長、学科主任
	改善の仕組みの実際	年間に4回程度実施し、授業および試験のスケジュール、シラバスの記載事項、指定教科書・教材等について検討している。

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

<p>自己点検・評価の結果から、課題の抽出・改善計画案を作成する。毎年、5月に学校関係者評価委員会を開催し、自己点検の結果、改善計画案を提出し、外部委員の意見を参考に改善計画を策定する。改善計画は、教職員会議を開催して全教職員に周知し、ホームページで公開する。11月に2回目の学校関係者評価委員会を開催し、改善計画の進行状況を報告している。</p>
--